

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふれあい教室			
○保護者評価実施期間	R8年 1月 20日		～	R8年 3月2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	R8年3月11日		～	R8年 3月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月 27日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	音楽を活用しながら、季節に合わせた活動や行事、お子さんに応じた活動の提供。さらにお子さん一人ひとりの状況に応じた支援。	集団活動の内容は毎日職員間で話し合い、準備をしています。行事の内容も職員間でよく話し合い、準備を入念にしています。個別支援計画や、支援の手立ては職員全員で支援の方向性を話し合っています。また外部の先生(言語、心理療法士、作業療法士、地域特別支援コーディネーター)に専門的なアドバイスを受け、見方や考え方を学んでいます。	活動内容がマンネリ化しないように、またお子さんが興味を持てる内容になるように、さらに、新しい情報を取り入れながら、職員間で共有し合い、活動を進めていきたいです。また支援の手立てについてもさらに専門的な先生からアドバイスを受けながら、学んでいきます。
2	お子さんの状況などを保護者と話し合い、保護者が相談したい時には、すぐに相談できるように対応しています。	保護者同伴で通所の為、こまめにお話をできるように心掛けています。また電話での相談も随時受けております。お子さんの状況や困っていることを保護者と共有できるよう、話しやすい雰囲気を作るようにしています。職員が話を聞き、さらに関係機関と連携した方がよい場合は、保護者に承諾を得て、関係機関と連携しています。	保護者がさらに安心して子育てができるように、関係機関と十分な連携を今後もしていけるように努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
	利用者が増えているので、今までのように一人一人に応じた支援ができるかどうか。	療育が必要な子が増えている。	療育が必要な子に各機関がどのようにそれぞれどんな支援をしていけばいいか、必要かの検討と情報共有がさらに必要。